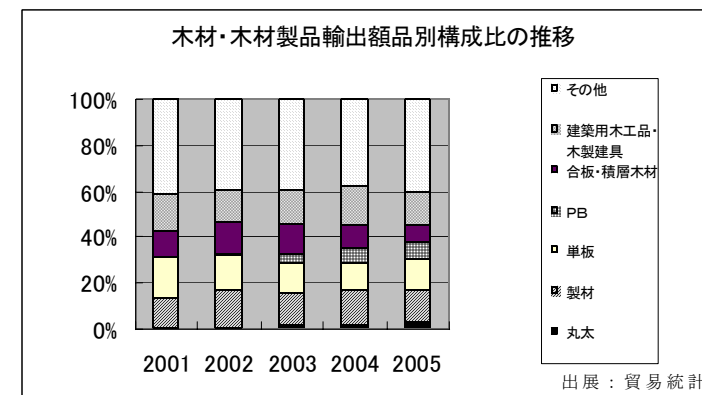
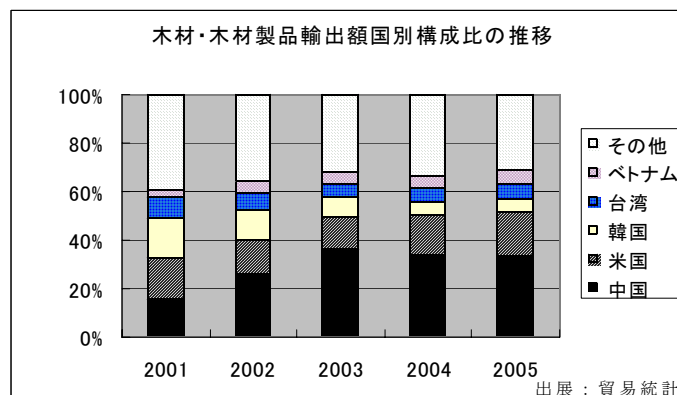
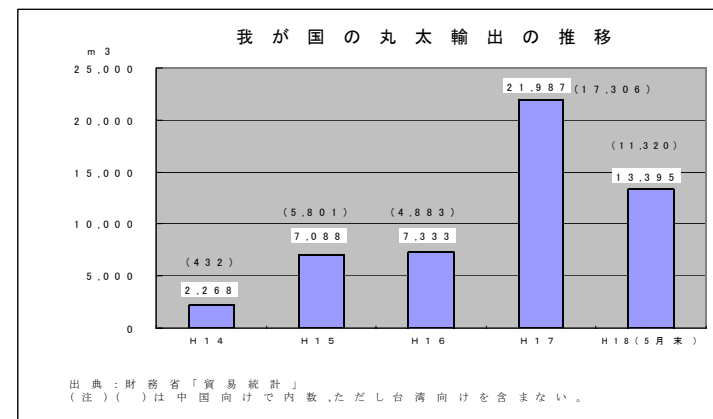


木材等輸出の現状と課題

〈現状〉

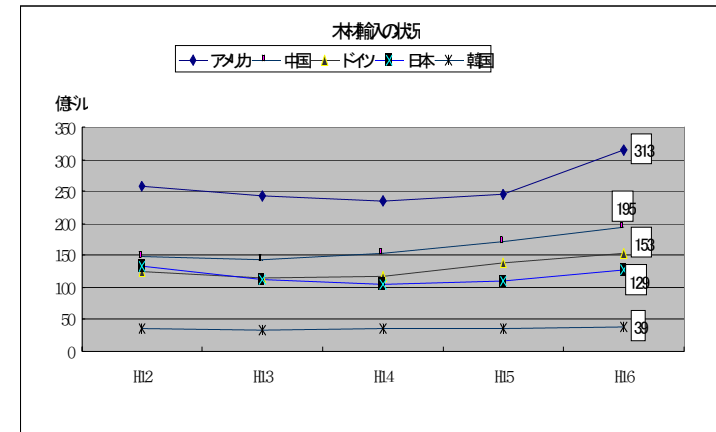
- 我が国の木材(丸太)の輸出は、平成14年までは、年間2千m³程度であったが、平成15年以降、宮崎県や島根県などにおける中国等へのスギ丸太等の輸出により増加(平成17年約22千m³)。
- 我が国の木材・木材製品の輸出額は、2005年で約105億円になる。輸出先別では、中国、米国向けで過半を占める。品別では、建築用木工品・木製建具やその他加工品などで、次いで単板、製材などとなっている。



注) その他の主な品目としては、パレット、食卓用品、たる、繊維板などがあげられる。

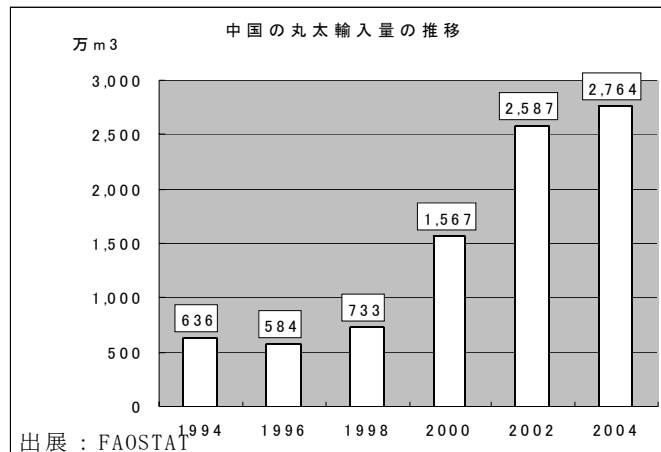
- 輸出先として有望な中国は、急速な経済成長に伴い、木材輸入が急増し、世界第2位の木材輸入国。

※木材輸入額の推移（平成16年（2004）、資料：FAO「FAOSTAT」）
 米国313億ドル、中国195億ドル、ドイツ153億ドル、日本129億ドル

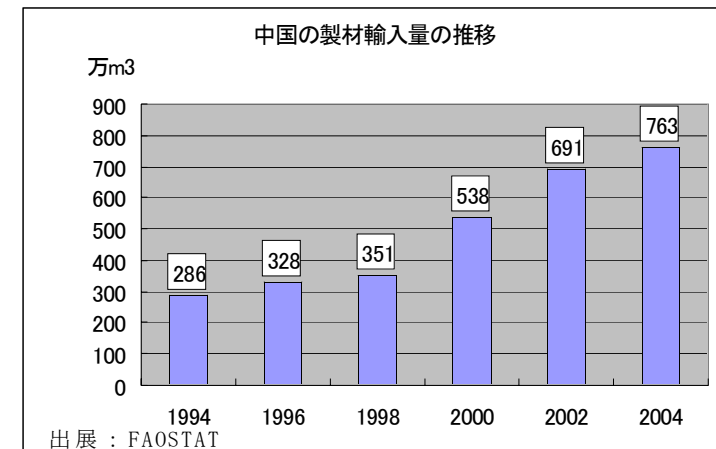


出展：FAOSTAT

- 中国においては、丸太、製品ともに輸入が急速に伸びている。



出展：FAOSTAT



出展：FAOSTAT

〈課題〉

これまで、「木材輸出可能性調査事業」（平成15～17年）により、中国等における住宅建設や木材需給動向等の調査や展示会への出展による日本産木材の普及宣伝を実施。以下のような点が主な課題として摘出。

- － 需要に応じたタイムリーな市場情報の不足
- － 輸出手続きや商習慣の違いへの不安
- － 日本産木材の認知度が低いこと

〈支援策〉

平成18年度においては、「木材海外販路拡大支援事業」により、中国等における市場動向などの情報の収集・提供や輸出セミナーの開催、日本産木材の効果的なPR手法の開発などを実施。

取組事例

年	月	概 要
平成 16年	2月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、韓国で開催された建材展に出展し、産直住宅と竹炭ボードをPR
	2月	島根 宮崎県の民間業者が、福建省にスギ・ヒノキ丸太約4000m3を輸出
	3月	秋田 秋田県産材海外需要開拓推進協議会が、北京で開催された総合展示商談会に出展し、秋田スギ製品をPR
	4月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、韓国(京畿道)で輸出第1号となる木造住宅の上棟式を実施(6月完成)
	4月	山形 庄内森林組合協議会が、ハルビン及び大連にスギ間伐材約30m3を試験輸出
	5月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、上海にスギ丸太100m3を輸出
	5月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、韓国に2棟目の木造住宅部材(プレカット材等)を輸出
	6月	山形 庄内森林組合協議会が、ハルビンで開催された商談会に出展しスギ間伐材をPR
	8-9月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、2棟目の木造住宅を韓国(京畿道)のリゾート地清平(チョンピョン)に、3棟目を韓国南部陝川(ハプチョン)に建設
	8-9月	鳥取 鳥取県森林組合連合会が、8月と9月に台湾にヒノキ丸太計112m3を試験輸出
	9-10月	石川 かが森林組合が、大連に間伐材を9月に124m3、10月に125m3を輸出
	11月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、江蘇省昆山市に木造住宅を1棟建設
	11月	宮崎大分 宮崎県森林組合連合会及び大分県の内装材業者が、上海で開催された展示商談会に出展
	11月	秋田 秋田県産材海外需要開拓推進協議会が、北京で開催された総合展示商談会に出展し、秋田スギ製品をPR
12月	秋田 秋田県の建設業者は、中国林業科学研究院が進めている「木造モデルハウス建設プロジェクト」に参加し、安徽省黄山に秋田スギを使用したモデルハウスを建設	
12月	石川 かが森林組合が、間伐材166m3を大連に輸出	
平成 17年	2月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、上海にスギ丸太250m3を輸出
	2,4月	石川 かが森林組合が、間伐材を2月に173m3、4月に242m3を大連に輸出
	5月	鳥取 鳥取県森林組合連合会が、台湾にヒノキ丸太を48m3輸出
	6月	山形 庄内森林組合協議会が、大連にスギ間伐材約60m3を試験輸出
	6月	宮崎 宮崎県の民間業者が、福建省にスギ・ヒノキ丸太約4500m3を輸出
	7月	北海道 住友商事が、江蘇省太倉(タイツェン)市にトドマツ、エゾマツの丸太約4000m3を輸出
	7月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、中国山東省にスギ丸太50m3を輸出
	8月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、ベトナムにスギ丸太200m3を輸出
	9月	鳥取 鳥取県森林組合連合会が、台湾にヒノキ丸太110m3を輸出
	10月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、上海の福祉関係施設の内装をスギ材で施工
	10月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、4棟目の木造住宅を韓国の慶尚南道陝川(ハプチョン)に、5棟目を全羅南道光陽(タニヤン)に建設
11月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、ベトナムにスギ丸太100m3を輸出	
11月	鹿児島 日本木造住宅輸出協会が、韓国のソウルに、鹿児島県産ヒノキ材及び竹炭ボードを内装に使用したモデルルームを設置、PR中	
平成 18年	1月	北海道 住友商事が、遼寧省大連にトドマツ丸太約4000m3を輸出
	1月	和歌山 「紀州材を中国へ」販路開拓支援事業の一環として、上海市内の建材専門店の展示場(約54m2)に、紀州材を使ったスギ、ヒノキの床材、壁材を展示、市場調査中
	3月	鹿児島 輝北プレスウッドが、中国北京における「未来の家」プロジェクトに参画し、木造2階建寒冷地使用のモデル住宅を建設するため、鹿児島県産スギ、ヒノキ材(約52m3)を輸出
	5月	宮崎 宮崎県森林組合連合会が、上海のマンション内のキッズルームの内装を県産スギ材で施工

林野庁が把握している事例であり、すべてではない。

木材海外販路拡大支援事業

1. 趣 旨

我が国の森林資源が人工林を主体に成熟しつつある中、森林・林業の活性化のためには、国産材の需要拡大が必要であり、国内での需要拡大とともに、海外での市場拡大に取り組むことも重要となっている。

また、東アジア、特に中国はロシアや東南アジア等から木材を輸入するなど世界第2位の木材輸入国であり、著しい経済発展に伴い今後とも旺盛な木材需要が予想されるなど、有望な市場と見込んでいるところである。

このような中、現在、政府・関係業界が一体となって、農林水産物の輸出促進を積極的に推進しており、木材についても需要拡大の一環として取り組んでいるところである。

しかしながら、木材の輸出については、これまでのところ個々の事業体の散発的な取組にとどまっており、海外における木材需給の現状や木材の輸出に当たって必要となる実務について十分な知見が蓄積されていない現状にある。

このため、需要に応じたタイムリーな現地情報の収集・提供、効果的なPR手法の開発及び実際の輸出業務に必要な情報の提供を行い、日本産木材の競争力を高め、輸出による海外への販路拡大を図ることとする。

2. 事業内容

- (1) 輸出相手国における木材関連情報の収集・提供や輸出相手国との関係者による意見交換会及び木材輸出促進に関するセミナーの実施
- (2) 北米等による売り込み手法の分析や輸出相手国の消費者嗜好の調査等による日本産木材の効果的なPR手法の開発
- (3) 試験輸出の実施等による輸出ノウハウの収集・提供

3. 事業実施主体 (財) 日本木材総合情報センター

4. 補助率 定額、1/2

5. 事業実施期間 平成18年度～平成22年度

6. 平成18年度予算額 30,000千円(0千円)